

# M I C E 施設整備への400億円もの投資を見直し 市営住宅計画修繕や学校施設の維持補修経費など充実を！

## 市民生活に身近な公共施設の維持管理・修繕経費が減額査定に

3月11日の予算決算委員会において、なすまどか議員は総括質疑を行いました。質疑では、来年度の予算編成において、多くの公共施設の維持管理・修繕経費が、予算査定において減額となっている問題を取り上げまし

た。市営住宅や学校施設の修繕、文化ホールの音響設備などの修繕、公共施設のトイレの改修など、市民生活に身近な施設の修繕経費は軒並みE査定とされ、先送りされています。

	査定	要求額	査定後	(千円)
市営住宅維持管理経費	E	183,923	164,000	▲ 19,923
市営住宅計画修繕経費	E	265,905	207,100	▲ 58,805
教育委員会 維持補修経費	E	271,908	201,000	▲ 70,908

E査定とは…E査定は優先順位や財源などを理由に事業の一部が先送りされた予算です。

## ボロボロの畳・老朽化した給湯器や風呂釜の市営住宅 日本一住みやすいまちを目指すなら予算の充実を！

市営住宅の計画修繕の詳細と進捗状況

	予算要求額	査定後の予算	残戸数
畳の取り換え	6073万円	4850万円	更新周期30年
			774戸
給湯器取替	4300万円	2500万円	更新周期15年
			600戸
風呂釜取替	3990万円	2720万円	更新周期10年
			575戸

予算を減額したにもかかわらず「必要な予算は確保できている」と答弁した幸山市長。しかし、市営住宅の計画修繕についても、左表のように更新周期に追い付いておらず、老朽化が進んでいます。

## 財政が厳しい要因は 身の丈に合わないハコモノ計画

質疑では、「400億円ものM I C E 施設整備をすすめれば、財政運営はますます厳しくなり、公共施設の管理・修繕経費などの予算確保がさらに困難になる」と指摘。

また、県外大手資本の仕事にしかつながらないM I C E 施設整備ではなく、地元業者の仕事や雇用につながる小規模・中規模の修

繕などに積極的に取り組むよう求めました。

財政が厳しいからと、市民生活に身近な施設整備の予算削減は許されません。財政難の要因となっている、身の丈に合わない大型ハコモノ計画を見直せば、拡充のための予算は確保できます。

(控室から)  
「日本一暮らしやすいまち」が問われる熊本市  
なすまどか  
「日本一暮らしやすい政令指定都市」を目指す幸山市政。市民が心からそう実感できるまちとなっていくのか、今大きな分かれ道に差しかかっています。  
予算決算委員会で多くの議員が取り上げた桜町再開発でのM I C E (大型会議場や「コンサートホールなど)整備。300億円の大型ハコモノで、補助金も合わせれば400億もの税金が投入されます。  
一方、政令市中3番目に高い国民健康保険料、周辺市町村と比べ遅れている小学3年までの子ども医療費無料化など、重い市民負担は暮らしを圧迫しています。今後は、さくらカードの所得制限導入・障がい者への負担引き上げなど、市民への受益者負担をさらに強いる計画が準備されています。  
市民への乏しい福祉サービスで生み出されたお金を、県外・国外から人を呼び込むためと中心市街地の再開発に注ぎこむ市政に「暮らしやすい」を実感できる市民がどれほどいるでしょうか？  
医療、子育て、介護、就職難、貧困など、市民の方々が直面している悩みに正面から向きあい、その苦難解決の施策を一步一步進めていくことが求められています。再開発への莫大な投資を見直すことが「暮らしやすい」への最初の一步となることは間違いありません。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

ますだ牧子 上野みえこ なすまどか

熊本市手取本町1-1 議会棟3階

NO. 891

2014年3月16日

電話 328-2656

FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

ホーム：http://www.jcp-kumamoto.com/

<益田牧子議員の一般質問 NO.2>

# 日本一住みにくい政令市! お寒い福祉・教育の実態

## 熊本市の子育て支援拡充は待ったなし!

熊本市と周辺自治体間の移動者数



## 周辺自治体に子育て世代等 831人転出増

総務省が、1月30日公表した2013年の人口移動報告では、熊本市は、全体では、転入プラスですが、周辺自治体への転出者が増えています。熊本市から周辺5自治体(合志市、菊陽町、益城町、嘉島町、大津町)へ831人の転出増となっています。年齢層では、0~14歳では、142人の転出増となっており、子育て世代の転出者が増えています。

## 小・中学校普通教室にエアコンを!

益田牧子議員は、小中学校へのエアコンの設置実現を幸山市長に迫りました。県下の小・中学校では人吉市、合志市、玉東町、甲佐町、嘉島町、芦北町、あさぎり町、湯前町、錦町など11自治体が設置。政令市でも福岡市が設置に踏み出すなどエアコン設置自治体が加速してきました。熊本市は、やっと音楽室に本年度設置され、障害を持つ子どもたちのいる特別支援教室については、一校当たり一教室に止まっています。地球温暖化が進み、PM2.5の問

題などもある中で、対応が大きく遅れています。国の補助金や元気交付金、市債を活用すれば、一般財源は少なくても済みます。益田牧子議員は、「障害を持つ子どもたちのいる163の未設置特別支援教室とすべての小中学校の普通教室へのエアコン設置は喫緊の課題」とエアコン設置の早期実現を求めました。幸山市長は、「全ての教室へのエアコン設置は、今後の課題」と述べるにとどまりました。

## 中卒までの医療費無料化、保育料の引き下げを!

益田牧子議員は、「子育て世代の転出の要因となっているのが周辺自治体と比べて大きく遅れている熊本市の子どもの医療費助成制度。周辺自治体は、子どもの医療費は、中卒まで無料なのに、熊本市は、小学3年生止まり。熊本市も中学3年生まで医療費無料化を実施すべきだ」と要求しました。幸山市長は、中卒まで無料化を進めた場合、約6億5千万円が必要と試算している。今後実施される子ども子育て支援新制度やその他の様々な子育て支援等の中で、総合的に検討していく」と冷たい答弁でした。

熊本市の保育料は、合志市と比べて、上限額が1万円高く、中間層も1万円ほど高くなっています。益田牧子議員は、熊本市においては、階層区分の見直しだけでなく、保育料を引き下げ、3歳未満児だけでなく、すべての第3子保育料無料化や認可外保育園の保育施設補助金の増額などを要望しました。**非婚のひとり親へ「みなし寡婦控除」適応で市営住宅家賃減免を** 非婚のひとり親に対する市営住宅の家賃などにも保育料と同様、「みなし寡婦控除」適応拡大を求めました。

## 学力テストの学校別順位公表はやめて!

全国学力テストは、第1次安倍内閣の時に本格開始。今年から、市町村教育委員会による「個々の学校名を明らかにした結果公表」を可能としました。益田牧子議員は、「学力テストの学校単位公表は行うべきでない」と述べ、教育委員長の見解を求めました。教育委員長は、「テストの実施に当たっては、その結果を活用し、どのように授業改善に役立てて行くかが大切」と述べ、「全国学力テストの結果について

は、熊本市では、現在、国・県及び市全体の問題種ごとの平均回答率と、平均回答率の結果からみられた課題、質問紙調査から見られた課題等の分析結果をホームページ上で公表中。現在の公表方法、内容で本調査の趣旨を十分実現しようと考えている。今後、公表のあり方については、学校現場や保護者の意見も伺いながら検討していく」と慎重姿勢を示しました。